

たぐろ

TAKUSUI
No. 730

8

August. 2017

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



関西学院大学生によるタコ活締め体験

組合長懇談会・豊漁祈願祭(豊岡市)

農林水施策の推進に係る政策提案会 開催

《今月の海上安全標語》～ 守るのは自分自身 ～

ライフジャケットを着用していますか？

着用する意思をもつかどうかということなのです。

あなただけ！ 自分の命を 守るのは！！

では、今月も安全操業で！

ようこそ

（ずつと真つ直ぐに）

（ようこそとは航海用語で宜しく候の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

伝統魚種の活用

公益財団法人ひょうご豊かな海づくり協会 総務部長 出口 秀雄



水産課在職中の昭和50年前後に毎年東京大手町にあった都立産業会館で全国の農林水産物の展示販売があり、水産物としては、海苔、ハタハタ、ニギスの販売やタコツボの展示などで東京都民に兵庫県産の農林水産物の売り子となってPRに努めた記憶があります。他県の同種の値段など敵情調査みたいなことも行いながら、如何にして買っていただくか、その前に如何にして兵庫県のブースに来ていただくか、など商品を買っていただくことの難しさを十二分に体験し、お金をいただくことは納得していただく商品であらねばならない、ということを担当前のことではありますが、この体験は今でも心の奥に残っており、昨年兵庫県の兵庫県民農林漁業祭でニギスの一夜千しの販売があったので懐かしく思い買つて食べました。非常においしかったです。私が知ってからでも40年以上にもなり、年代を重ねております。

今から10年ほど前になりますが、京都の「伝統産業の日」というイベントが祇園甲部歌舞練場であり、京都の伝統産業がいかに継続発展してきたかの話を聞き納得した覚えがあります。悠久の歴史の中で脈々と受け継がれてきたのは、厳しく、そして優れた目を持つ使い手と「匠の技」を持つ作り手が相互に刺激しあうことで、これまで発展し続けてきた。つまり、当たり前なことと思いますが、これが最高と自負しない、停止しないことが継続発展の要因であると思っております。

不易流行（ふえきりゆうこう）という四字熟語があります。いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねるものを取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていくこと。また、伝統とは、形骸を継ぐものではなく、その精神を継ぐものである。何百年も続く老舗は、このように基本（経営理念）をしっかり持ち、その基本の上に時代々々にふさわしいものを付加することで今日まで続いているのだと思います。

とりとめもないことを述べてきましたが、さて兵庫県には春夏秋冬の12魚種のプライドフィッシュが選定されています。これらの魚種が兵庫県の伝統魚種として、県民の皆様方にもっともっと周知を図り、高齢化も踏まえ年齢層にふさわしい調理方法の工夫を重ねることが、魚の消費拡大の一つの要因にならないでしょうか。以上は私事であり、公益財団法人ひょうご豊かな海づくり協会も皆様方の期待に応えられるよう日々研鑽し

種苗生産に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

CONTENTS

No.730 August. 2017

- 2 ようこそ
- 3 兵庫県漁業協同組合長懇談会・豊漁祈願祭開催
農林水産施策の推進に係る政策提案会開催
- 4 関西学院大学田和ゼミ（文学部）との消費流通検討交流会開催
親子で挑戦!! 平成29年度マリンスクール
- 5 但馬地区漁協青壮年部連合会グループリーダー夏期研修会開催
大輪田塾OB会通常総会開催
- 6 神戸のさかな祭開催
JF由良町 安全講習会開催
- 7 但馬地区漁協青壮年部連合会 福井県視察報告
淡路地区漁協青壮年部連合会 農業×漁業の若手組織連携プロジェクト
- 8 神戸運輸監理部からのお知らせ
海難事故をなくそう
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

関西学院大学生によるタコ活締め体験

恒例となった関西学院大学 田和教授のゼミ生との消費流通検討会。

毎年、料理教室やロープワーク体験など様々な取り組みがなされていますが、今回ついにタコ釣り漁の実践に！暑い中仕掛けを投げ入れ頑張りました。

1時間程度の漁体験でしたが、勤の良い学生さんは、タコの重みも感じ取り5〜6匹釣りあげていました。

今回の体験を多くの人に発信して頂くとともに、漁業への理解や海を愛する心に繋げて欲しいと思います。

平成29年 兵庫県漁業協同組合長懇談会 豊漁祈願祭を開催

JF兵庫漁連（田沼 政男会長）は7月20日（木）、21日（金）の2日間にわたり、豊岡市内のホテルにおいて「平成29年兵庫県漁業協同組合長懇談会・豊漁祈願祭」を開催しました。

20日に行われた組合長懇談会には、県内のJF組合長、系統団体の代表、行政機関の代表等約70名が参加し、この日招かれた講師3名から話を聞きました。

JF全漁連 大森敏弘常務は、「新たな水産基本計画について」と題し、この4月に改正された内容を中心に解説されたほか、漁業を取り巻く中央情勢についても詳しく話されました。特に漁業権の民間企業への開放については質疑応答でも多くの意見が寄せられ、関心の高さがうかがわれました。一般社団法人大日本水産会 茅野直登主任の「外国人技能実習制度について」とした講演では、同制度の概要や今秋改正される内容について話がありました。ここでは既に同制度を利用してJF組合長からは具体的な質問が多く出され、活発な意見交換となりました。最後に国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校 副島 久実講師より「水産物小売の現代的特徴とこれからの課題」と題した講演があり、副島講師は現在の食品流通の中心的存在のスーパーチェーンにおける水産物小売の特徴を、写真を交えながら解説されました。話の中で、近年、多種多様な地魚を他店との差別化手段の一つとして重視する店舗が増えてきたことなどを挙げられ、「対面販

売などと併せて、今後、地魚を使った販売強化が一層図られる」とされ、参加者は熱心に聞き入っていました。

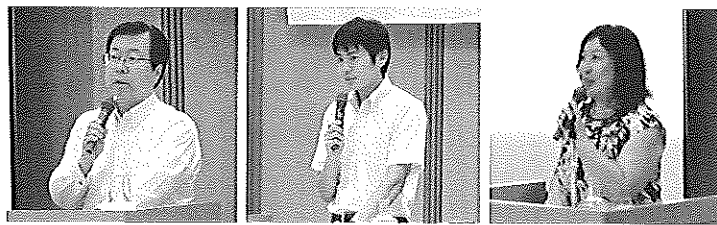


豊漁祈願祭の様子

翌日には、同じホテル内で「平成29年豊漁祈願祭」が、同市の絹巻神社の神職により執り行われまし。

室内に設けられた祭壇に向かい、参加者は豊かな海の創出と豊漁、操業の安全を祈願しました。

（文：JF兵庫漁連指導部）



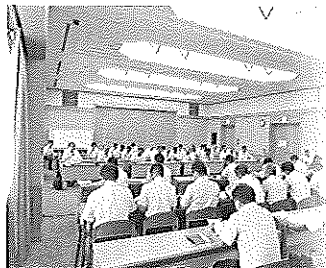
この日、講演された講師の皆様（左から大森常務、茅野主任、副島講師）

平成29年度 農林水産施策の推進に係る

政策提案会開催

県の翌年度予算や重要施策に系統団体の意見を反映させるための「平成29年度農林水産施策の推進に係る政策提案会」（兵庫県主催）が、7月19日（水）神戸市の兵庫県土地改良会館で開催されました。水産業界から水産施策の提案が行われる同会には、県幹部をはじめ、系統団体から多数の関係者が出席し、毎年、この時期に開かれています。

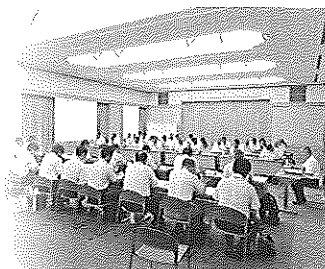
冒頭、JFグループ兵庫水産政策協議会を代表してJF兵庫漁連 田沼 政男会長は、北朝鮮のミサイル発射問題やライフジャケットの着



用義務化に触れつつ、「本日提案する5つの内容は、兵庫の水産業において大変重要なものである。これらの問題は行政と一緒に、一つひとつ解決していきたいと考えているのでご指導、ご協力を賜りたい」と挨拶しました。

引き続き、JF兵庫漁連 突々 淳専務より5項目にわたる施策提案を行い、これらのテーマを中心に、県幹部とJFグループ兵庫水産政策協議会委員による活発な意見交換がなされました。

（文：JF兵庫漁連）



平成30年度 政策提案の内容

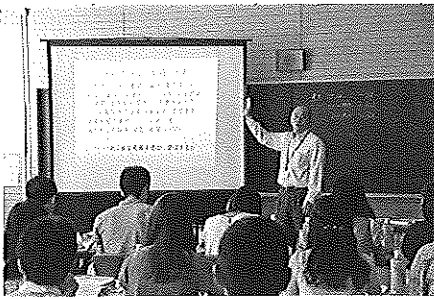
- 要望事項**
- ① より幅広い後継者対策にかかる対応
 - ② 漁業就業者確保のための実態調査の実施
 - ③ 教育機関との連携強化
 - ④ 豊かな海の実現に向けた取組みについて
 - ⑤ 流域別下水道整備総合計画における全要素、全りんの計画処理水質の大幅な増加について
 - ⑥ 海底ゴミの回収について
 - ⑦ 水産技術センターの研究体制の充実について
 - ⑧ 漁業経営安定対策について
 - ⑨ JF組織強化に係る取組みへの指導
 - ⑩ 競争力強化対策事業等の拡充に係る働き
- かけ**
- ① 漁船用軽油にかかる軽油引取税の免税措置について
 - ② 県産水産物の価値向上・需要拡大について
 - ③ 学校給食における地元水産物の普及活動への支援
 - ④ 「兵庫のり」の海外輸出に関する支援
 - ⑤ 県産水産物の消費拡大に向けた流通販売拠点の強化に対する支援とPRへの協力について
 - ⑥ 操業安全対策の強化について
 - ⑦ ライフジャケット義務化に伴う指導強化
 - ⑧ 北朝鮮からのミサイル発射に係る対応について
 - ⑨ 放置された船舶への対応について

関西学院大学田和ゼミ(文学部)との

消費流通検討交流会を開催 漁業者と大学生との交流の輪ノリ学習・タコ釣りに

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(大西 正起会長・JF伊保 俊)は、関西学院大学文学部 田和 正孝教授のゼミ生との交流を平成25年から続けており、今年も「消費流通検討交流会」と題して7月22日(土)、JF兵庫漁連の流通センター、JF西二見で開催されました。

田和教授とゼミ生ら15名と、参加青年部員、県・系統の関係者、事務局の6名は、まずのり流通センターにて同漁連のり海藻部 藤澤 憲二部長からの入札から市場流通について講義を受け、兵庫県産ノリがコンビニ等で多く使用されていることを学習し、ゼミ生から積極的に質問が出ていました。



ノリについての講義



釣れました



ダブルヒットも!

その後、実際にコンビニにて販売されている兵庫産ノリを使用したおにぎりを食べたのち、JF西二見 松本 水産に移動し、タコてんや針の説明を受けた後、実際にてんや針をつかってタコ釣りに挑戦しました。初めはなれない手つきで針も遠くに投げられませんでした。徐々に飛ぶようになり、実際にタコが釣れた時には、大きな歓声が揚がっていました。

今後は積極的に各浜へ産地見学を組み、若者たちに浜の宣伝や漁業、海に関する積極的な情報発信を行う予定です。まずまず交流の輪を広げていく予定です。

親子で挑戦!! 平成29年度マリンスクール



コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連による協同組合間の連携活動として毎年実施しているマリンスクール(2コース)

が今年の夏も開催され、参加した親子連れ(約130人)は楽しく兵庫の漁業や県内産水産物について学びました。

第35回目となるJF神戸市コース(7月27・28日)では「ゼリ市」を見学したり、「魚のつかみ取り」、「ヒラメ稚魚の放流」、「タコの塩もみ」などを体験したほか、兵庫の漁業と環境のつながりを学習しました。特に魚のつかみ取りでは、「アナゴ・ハマチ・タコのほか様々な生きている魚が入ったプールに子供たちが入り、終始笑顔であふれていました。

一方、第7回目となるJF兵庫漁連SEATICLUBコース(8月4日・8月5日)では「干シタコ作り」や「アジの三枚おろし」、「チリメンモンスター探し」、「兵庫の漁業と環境の学習」に挑戦しました。干シタコづくりは初めての方がほとんどだったようで、生きたタコに驚きながらも、親子で一緒に和気あい

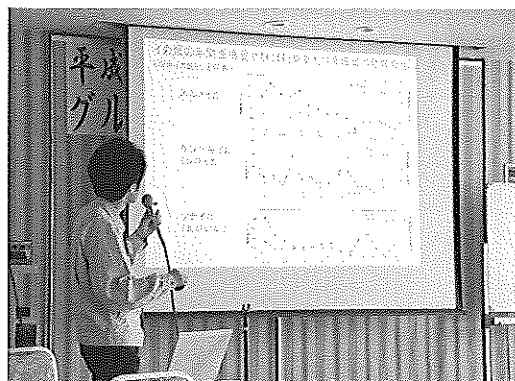
あいと取り組んでいました。どちらのコースも、終了後のアンケートでは多くの方が来年も参加したいとのこと、普段できない体験や学習を通して、とても楽しんでもらえたようです。SEATICLUBでは、このマリンスクールを通して、漁業や水産物の魅力をより広く身近に感じてもらい、今後とも取り組んでいきたいと考えています。

(文：JF兵庫漁連 SEATICLUB)



グループリーダー夏期研修会を開催

～イカ類とズワイガニに関する2講演～



鈴木主任研究員の講義

但馬地区漁協青壮年部連合会（山中康正会長…JF但馬）は、豊岡市のホテルで「平成29年度但馬地区漁青連グループリーダー夏期研修会」を開催し、行政などの関係者も合わせて約30名が参加しました。

山中会長は「魚食普及活動は、青壮年部だけでは難しいので、漁協女性部や系統団体と一緒に、盛り上げていきたい」と挨拶され、来賓の県但馬水産事務所水産課 小田垣寧課長は「水産教室、魚食普及活動に敬意を表します。今後も活気に満ち溢れた活動をお願いしたい」と今後の同漁青連の活動に期待を寄せられました。続いて、JF浜坂青壮年部 田畑 富治さんが「平成28年度但馬漁青連 技術視察研修報告」と題して、明石浦漁協視察と摂津播磨漁青連・関字との交流会での視察内容

について発表を行いました。

その後の研修は2課題行われ、「日本海におけるスルメイカ等の資源状況と漁獲動向」と題した研修では兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター 鈴木 雅巳主任研究員が、日本海沿岸漁業の重要な魚種であるイカ類の漁獲量の経年変化や資源量、長期漁況予報について話されました。次に「日本海西部海域におけるズワイガニの生態と資源動向」として国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 上田 祐司氏より講演がありました。但馬地区漁業の重要な資源であるズワイガニの脱皮と成長や資源量調査、ミズガニ保護など資源管理について詳しい説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



ズワイガニの話に耳を傾ける参加者

大輪田塾OB会通常総会を開催



山田氏による話題提供

大輪田塾OB会（戒本 裕明代表幹事…1期生 JF明石浦）は、8月5日（土）、明石市内のホテルにおいて通常総会を開催し、東根 壽塾長、田和 正孝運営委員（関西学院大学）を来賓に迎え、修了生・事務局併せて25名が参加しました。

来賓挨拶で東根塾長は「大輪田塾OB会が、世代、地域を越え漁業に関して様々な意見交換や議論の場となり、将来の兵庫を担っていく組織になることを期待する」と話され、田和運営委員からは「当初から塾運営携わってきた皆さんから教わることは改めて感謝している。更なる発展のためにはOBの力が必要」と

今後の同会の活動へ大きな期待が寄せられました。

総会では平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画が承認されました。終了後、山田 純氏（9期生…兵庫県漁業共済組合）より「ぎよさの現状」漁業者からの質問」と題した話題提供がなされ、ぎよさい掛金の計算方法や所得税法上の取り扱いについて活発な質疑応答が行われました。この後行われた「大輪田塾OB会交流会」では、久しぶりに顔を合わせた仲間たちとの会話や、大輪田塾で恒例となった事務局も交えた近況報告もあり、大いに盛り上がりました。



交流会では日韓暫定水域についての説明も

第4回 神戸のさかな祭 開催 ～約2,000人が集まる～



鮮魚販売の様子



鮮魚のくじ引きコーナー

いにもかかわらず、開始30分以上前から鮮魚を買い求める来場者が長い列を作ったほか、水産研究会による地元神戸の焼きアナゴ、女性部による釜揚げしらす丼、ちりめん・海苔などを扱う物販コーナーや、鮮魚のくじ引きやタッチングプールに大勢の人が集まり、晴天に恵まれるなか約2,000人が訪れ、盛況のうちに終わりました。



JF神戸市(福田一義組合長)にて、第4回神戸のさかな祭が、7月16日(日)、神戸市の垂水漁港で開催され、新鮮な地元魚を求め大勢の人で賑わいました。
同祭りは、平成26年から、地元の魚をもっと市民に知ってもらおうと開催し、新鮮な魚が格安で販売されることから人気を博しています。

JF由良町 安全講習会開催

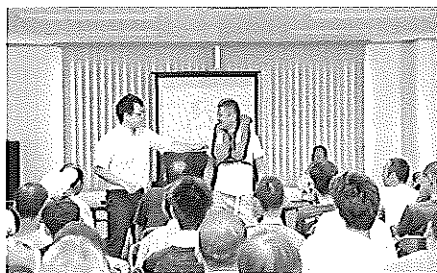


ライフジャケットのメンテナンス学習

膨張型については日頃のメンテナンスが非常に大事であり、参加者からは、「最低でも年一回は、みんなが集まって、メンテナンスする必要がある」などの声も揚がっていました。参加者はあらた

が講習を受け、神戸海上保安部戸川義徳氏から操業・航行安全についての講演があったほか、JF兵庫漁連から膨張式ライフジャケットの作動やメンテナンスの説明を行いました。膨張体験では、作動しにくかったり、気室部分に穴が開いており、一時的に膨らんだもののすぐにしぼんだものもありました。

JF・系統団体が各地で開催している、命を守る運動「海上安全講習会」がこの度、JF由良町(川野正二組合長)で開催されました。講習会は7月18日(水)と21日(金)の2日間行われ、延べ約80人の組合員が参加しました。



ライフジャケット作動体験

また、平成30年2月に適用されるライフジャケット着用義務化について、拡大された範囲や点数制度の説明も受け、安全操業意識を高めました。講習会会場で昨年漁労中に落水し救助された井戸次男さんのお話を聴くことが出来ました。井戸さんは、昨年8月30日友ヶ島沖約2キロ付近にて太刀魚漁を行っていましたが、その日はやや波が高く、漁中に波を受け海中に投げ出されました。しかしライフジャケットを着用しており浮いていたので、落水に気が付いた僚船に引き揚げられ救助されました。井戸さんは「落水し海水を2回飲んでしまった。ライフジャケットを着けていなければ危なかった」とおっしゃっていました。

改めてライフジャケットの重要性を実感できたようです。また、平成30年2月に適用されるライフジャケット着用義務化について、拡大された範囲や点数制度の説明も受け、安全操業意識を高めました。講習会会場で昨年漁労中に落水し救助された井戸次男さんのお話を聴くことが出来ました。井戸さんは、昨年8月30日友ヶ島沖約2キロ付近にて太刀魚漁を行っていましたが、その日はやや波が高く、漁中に波を受け海中に投げ出されました。しかしライフジャケットを着用しており浮いていたので、落水に気が付いた僚船に引き揚げられ救助されました。井戸さんは「落水し海水を2回飲んでしまった。ライフジャケットを着けていなければ危なかった」とおっしゃっていました。



安全講習の様子

但馬地区漁協青壮年部連合会 福井県視察報告

但馬地区漁協青壮年部連合会は、7月6日～7日に福井県越前町とJF福井漁連敦賀水産加工工場視察を行いました。

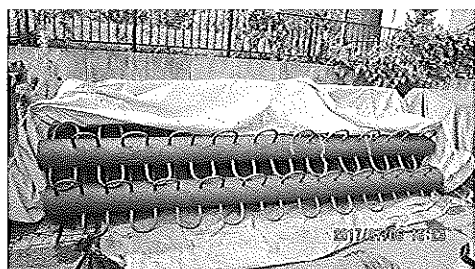
まず、7月6日にJF越前町の漁業者との意見交換会を行いました。まず越前カレイ（アカカレイ）の映像やセリの画像を見ました。越前町漁協では越前カレイの神経抜きに力を入れている事に驚き、出荷量では年間約3トンの出荷があり、単価では少しづつではあるが高くなっている状況でした。

すごい手間がかかる事ではあるが、神経抜きをしてから4日ぐらいは新鮮なさしみを食べる事ができ、消費者へ魚を美味しく届ける努力がされていることがわかりました。

その後、漁業者との情報交換を



越前町漁協での意見交換



海底耕運の道具

し、JF越前町では海底耕運に20年以上前から力を入れ、東京ドーム8,000個分ぐらい福井県沖を耕し、実績としては今までの1.5倍ぐらいの漁が増えているという話を聞き、大変勉強になり、参加した但馬漁連部員も学ばないといけないと思いました。

また、水ガ二の話ではなかなか禁漁には出来ないが、次年度から期間を40日間から30日間にすることを、関連団体と調整中との事でした。京都沖の禁漁に対しては今の所、何も変わっていないという考えを話されました。

7月7日ではJF福井漁連敦賀水産加工場に視察をしました。昨年の5月より稼働し、昨年は計画よりは少なかったが、今年度は学校給食に使う魚などを受け入れ売上を伸ばす事をされているとの事でした。加工場の視察では、衛生管理には徹底し、魚をさばく時には機械をあまり使わずに業務している事に、但馬漁連部員は驚いていました。

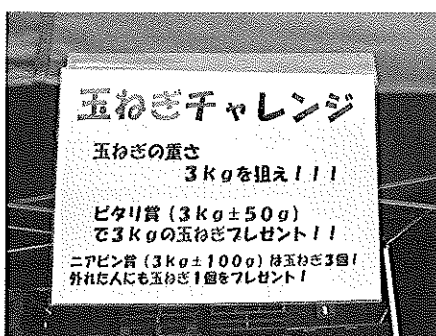
この2日間とても有意義な視察研修となりました。

農業×漁業の若手組織連携プロジェクト 淡路産の農水産物イベント

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎大輔会長・JF淡路島岩屋）は、洲本市の農業後継者グループ「洲本市農業青年会議」と協力して、淡路島の農水産物PRや漁業やおさかなを知ってもらおうと、7月9日（土）淡路市尾崎で物販イベントを開催しました。



タッチングプール



玉ねぎチャレンジ詳細

会場では、ワカメや海苔、野菜などが格安で販売され、購入された方からは淡路島の農水産物について、どのような野菜を作っているの？どんな魚が獲れるの？美味しい食べ方は？といった会話がスタッフと交わされ、淡路島の特産品に関心を寄せていました。また、タッチングプールや干しダコ作りでは子供たちが水槽を取り囲み、初めての干しダコづくりに悪戦苦闘しながらも挑戦していました。漁船に乗っての会場クルージングでは近くを操業中の漁船に手を振り、全速力で船を走らせると大人も子供も大喜びで漁船に乗れる貴重

な体験ができたと興奮した様子でした。玉ねぎの重さ3kgを測る「玉ねぎチャレンジ」を家族で挑戦された参加者では奥さんが満を持して登場し、ピタリ賞を獲得するなど盛り上がりました。



漁船クルージングに出発

今後の活動としては、今回のイベントの反省と次の事業についての打合せを行い、さらに淡路島の食材を広くPRしていく活動へ結び付けていく予定です。

（文）淡路地区漁協 青壮年部連合会



平成29年度(第61回) 船員労働安全衛生月間

神戸運輸監理部
からのお知らせ

実施時期 平成29年9月1日～9月30日
 主催者 国土交通省、水産庁
 協賛者 船員災害防止協会、地方(地区)船員労働安全衛生協議会
 協力者 関係行政機関、関係地方自治体などの関係団体
 実施者 船舶所有者、船員

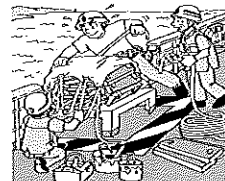
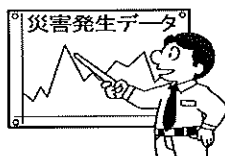
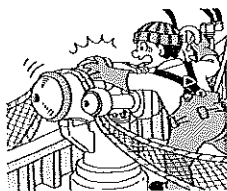
◇月間スローガン

元気に乗船、笑顔で下船、皆で取り組むゼロ災害

月間実施要綱の要点

◇重点対策

- ① 作業時を中心とした死傷災害防止対策
- ② 海中転落・海難による死亡災害防止対策
- ③ 漁船における死傷災害防止対策
- ④ 高齢船員の死傷災害及び疾病防止対策
- ⑤ 生活習慣病等の疾病防止対策
- ⑥ その他の安全衛生対策



月間実施要領の要点

- (1) 船舶及び事業場の自主総点検並びに防止対策の実施
- (2) 安全衛生に関する訪船指導
- (3) 安全衛生管理体制に関する指導強化
- (4) 船員災害防止大会、講習会、講演会等の開催
- (5) 医療関係機関等との連携等
- (6) テレビ、ポスター、懸垂幕等による広報活動



行事内容の詳細などの御質問や、行事に対する御要望などは、
 神戸運輸監理部海上安全環境部
 船員労働環境・海技資格課
 (In 078-321-7053) へ御連絡下さい。

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着用しよう!

膨張式ライフジャケットは定期的なメンテナンスが必要です!
 最近はボンベが下部に配置されたタイプもあり、首回りが楽になっています。

是非、着用してください。

平成30年2月ライフジャケット着用義務化はじまる!!

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。

浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。

まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



◀モデル:
 兵庫県漁協女性部連合会の皆さん
 平成29年通常総会にて

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
 所属JFかJF兵庫漁連のり海藻部資材担当(078-942-9272)までお問い合わせください

食農教育を充実させるために 第13回あぐりスクール全国サミット in JAたじまを開催

あぐりスクール全国サミット実行委員会は、7月28日・29日に第13回あぐりスクール全国サミット in JAたじまをJAたじま管内で開催しました。同サミットはJAたじまの実践事例を交えながら食農教育の意義について深めることが目的。

1日目には但馬空港ターミナルビルで食農教育についての基調報告、「あぐりキッズスクール」(JAたじまで開催されるあぐりスクールの名称)の事例報告を行った後、全体討論でコーディネーターのJC総研 西井氏からの質問や会場から出た質問にコメンテーター(JAたじま 藤林常務、坂田係長、岸根支店長、家の光協会 中編集長)が答えていくことで、参加者全員の見識を深めました。また、豊岡市立竹野南小学校4年生の宇野詩織さんが『ちゃぐりん』を好きな理由と「あぐりキッズスクール」に参加した感想を発表しました。

2日目には豊岡営農生活センターで実際に行われている「あぐりキッズスクール」活動を視察しました。活動は2部構成となっており、前半の「ちゃぐりんの時間」では『ちゃぐりん』を活用して野菜生き物について学習する様子を、後半では田んぼに入って、実際に生き物調査を行う様子を見学しました。

同サミットを通じ、次世代に食と農の大切さを伝える食農教育活動の意義を再確認しました。



あぐりキッズスクールを紹介する岸根支店長

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

大学生協関西北陸事業連合が 「ACAP消費者志向活動章」を受章

公益社団法人消費者関連専門家会議(以下、ACAP)では、2015年度から、消費者志向活動表彰制度を設け、「ACAP消費者志向活動章」として、消費者志向経営を推進、支援する活動を表彰しています。第2回となる今回は、5つの活動(4団体・事業者)が選ばれ、その一つとして、大学生協関西北陸事業連合が受章しました。

この表彰式が、2月10日(金)に、ACAP・一般社団法人日本経済団体連合会・消費者庁の共催による、「2017 消費者志向経営トップセミナー」(於:経団連会館250名の参加)にて執り行われました。

この度、関西北陸事業連合が表彰された活動は、「多様な主体と連携した消費者教育の取り組み」で、「消費者市民社会の実現を目標に据え、その核となる人材を育成し、継続的に運営できる仕組みにしている点が高く評価できる。大学生の積極的な取り組みと共に、事業者と消費者の両面を併せ持った特徴を活かし、行政・事業団体・事業者との連携を進めている点も素晴らしい」ということが評価されました。



生活協同組合連合会 大学生協関西北陸事業連合 末松素信専務理事(前列左端)

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

暮らしの中の和紙

◆紙の歴史は古く、古代中国の前漢時代初期（紀元前2世紀頃）の墓から、世界最古の紙が発掘されている。死者の胸に地図らしき断片が載せてあり、既に細い線を描ける紙が造られており、恐らく其の頃偶然に発明されたものようだ。その後、蔡倫が改善を加えた事で「紙の祖」と言われる。日本では正倉院の古文書が千年余を経て最も古い紙である。和紙は日本独特の伝統工芸として素晴らしき技が伝承され、ユネスコ無形文化遺産に登録された。埼玉の細川紙・島根の石州紙・岐阜の美濃紙が対象だが、日本文化が評価された事は大いに誇っていいと思う。兵庫にも杉原紙・皆田紙・名塩紙が伝統を受け継いでいる。

◆今、紙といえば木材パルプが原料の洋紙の事を指す。本来、紙は字を書くために考えられ、新聞・雑誌・紙幣・切符などに、その本領を発揮しているが、印刷以外にも驚くほど多種多様に用いられ、その文化への貢献度は図り知れない。日本は世界有数の紙の生産国であり消費国でもある。これは誇りとしていいだろう。洋紙を集める人は居まいが、「和紙」の各産地品を集めるのを道楽とする人は居る。紀文の旧宅は天井に張った幾百枚の紙が、一紙毎に異なる産地のもので、その拘りと収集力に驚かされる。凄く道楽があったものだ。

◆日本人は衣食住の素材を森林から採取、楮（こうぞ）や藤・葛などの樹皮から繊維を取り出し衣料としていたから、これら韌皮繊維から紙を造る事は直ぐに可能だったと思われる。奈良時代、仏教普及に併せて紙の需要が高まり、中央官庁直轄で「紙屋院」を設置して指導、国産紙の製造開発が図られたという。平安時代には諸々の藩で和紙造りが普及したようで、植物の粘液を活用しての「流し漉き」という抄紙法を考え出した事が、和紙造りを一段と進歩させた要因といえる。通常、トロアオイの根から、独特の粘りのある「ネリ」ができる。

◆舞子の「移情閣」改修で偶然見つかった金唐革（きんからかわ）紙も、その素晴らしい風格が当時の賓客を魅了したという。今、明治初期の製法で再現されているが、日本文化の偉大さを感じられる。和紙づくりを体験するという触れ込みのツアーに参加し、福井の越前市「和紙の里」を訪ねた。この地には紙祖として崇める川上御前（こがね）の伝説があり、水清らかな谷に現れた女神から、紙漉きの技が伝えられたという。パピルス館で係員の説明を聞いて、和紙漉きの作業を行ったがバス出発迄の僅かな時間内に、自分の漉いた紙が出来上がるのには大いに感心した。コウゾ主体の和紙は手触りが優しく、植物繊維の温かみがあって実にいい。真新しい和紙に、日本人の歴史がグッと凝縮されている。

大輪田塾だより

7月は2回開講 3講座

7月の大輪田塾は4日（火）と25日（火）の2回開講されました。

4日に開催された「漁業法概要」では、県水産課漁政班 西野英樹班長・峰浩司主査から、漁業法の内容や漁業権の成り立ちのほか、兵庫県漁業調整規則などについて詳しく解説がありました。

25日は2講座開催され、「漁業への気象情報の利用」では、兵庫県漁業協同組合連合会 淡路事業所 中谷明泰所長から、一般的な天気予報から、台風や竜巻などの低気圧の話や気象庁ホームページ上のデータの読み方について講義していただきました。

続く、「なぎさ信用漁業協同組合連合会について」では、なぎさ信用漁業協同組合連合会 黒田俊文理事長より、信用漁業組合の歴史や系統団体としての役割を分かりやすく講義していただき、和歌山県信漁連との合併について質問がでるなど、最後まで熱心に聞き入っていました。



漁業法の講義の様子



なぎさ信用漁業協同組合連合会についての講義